

R18
— FOR —
ADULT
ONLY

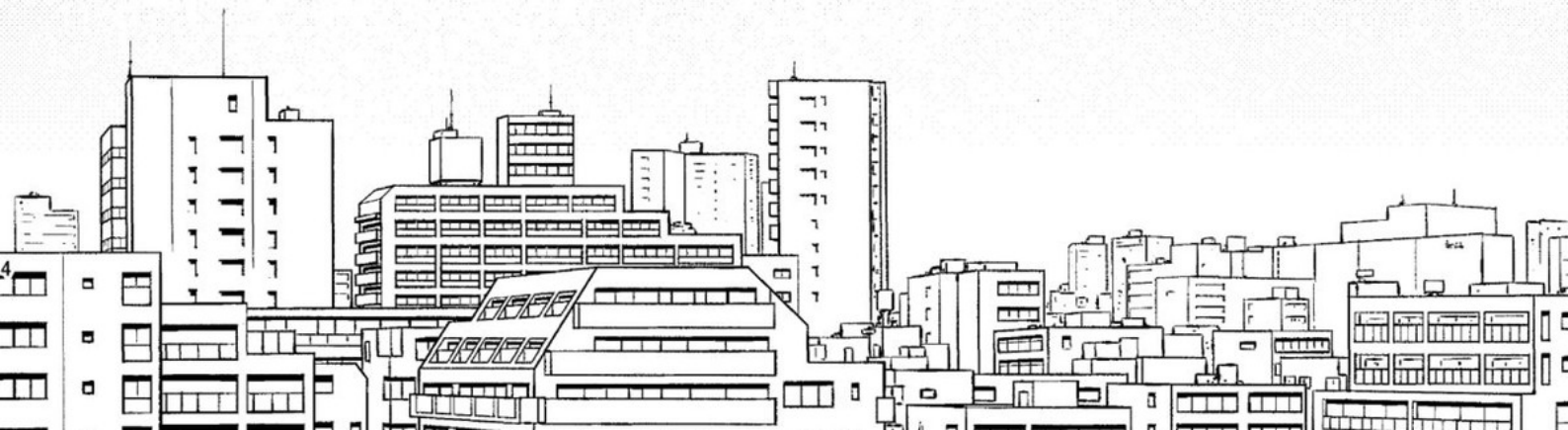
Beyond the truth



それは

大学卒業を
間近に控えた

冬の夜の
ことだった







零さんと
付き合い
始めたとき

ひとつだけ
約束を交わした

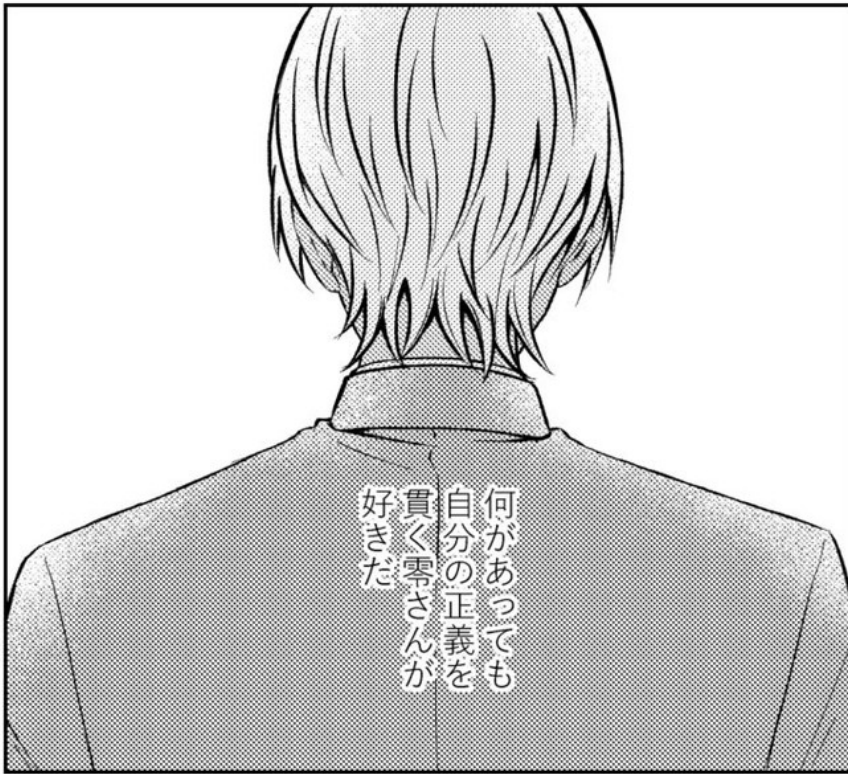


ねえ新一くん



零さんがこれ以上
付き合っていくのは
無理だと判断した

それくらい
今回の任務は
危険なもの
なんだと思う





抱いて
欲しい

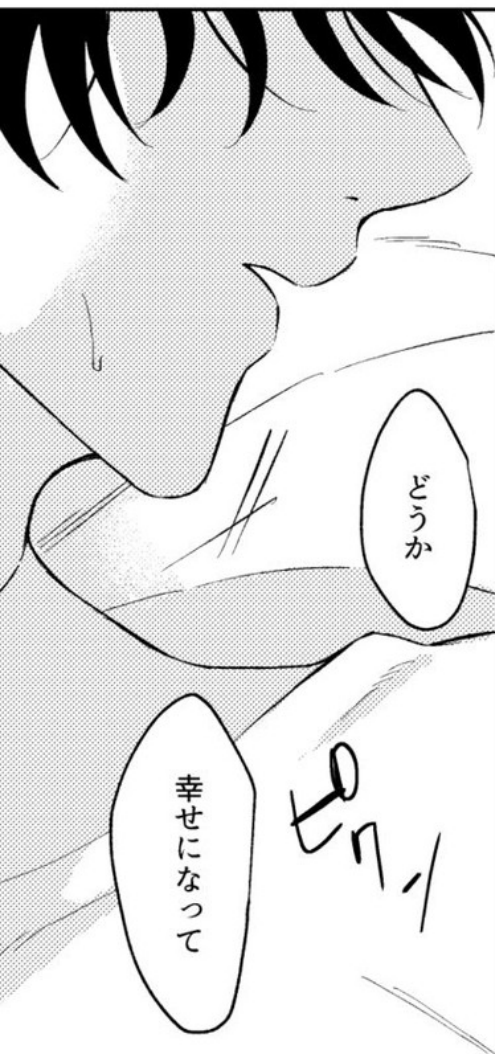


抱いてよ
零さん













どうかきみだけは



どうか



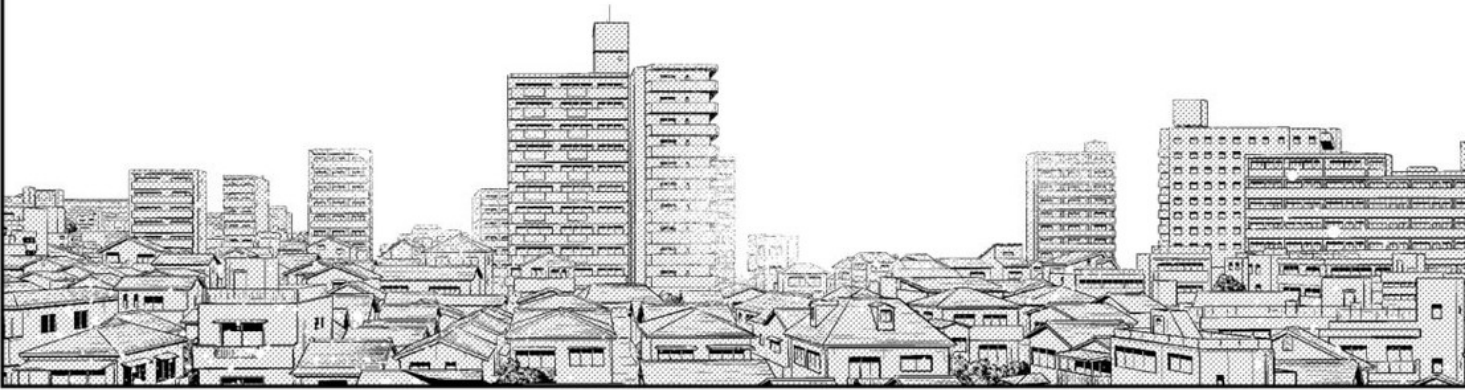
新一くん

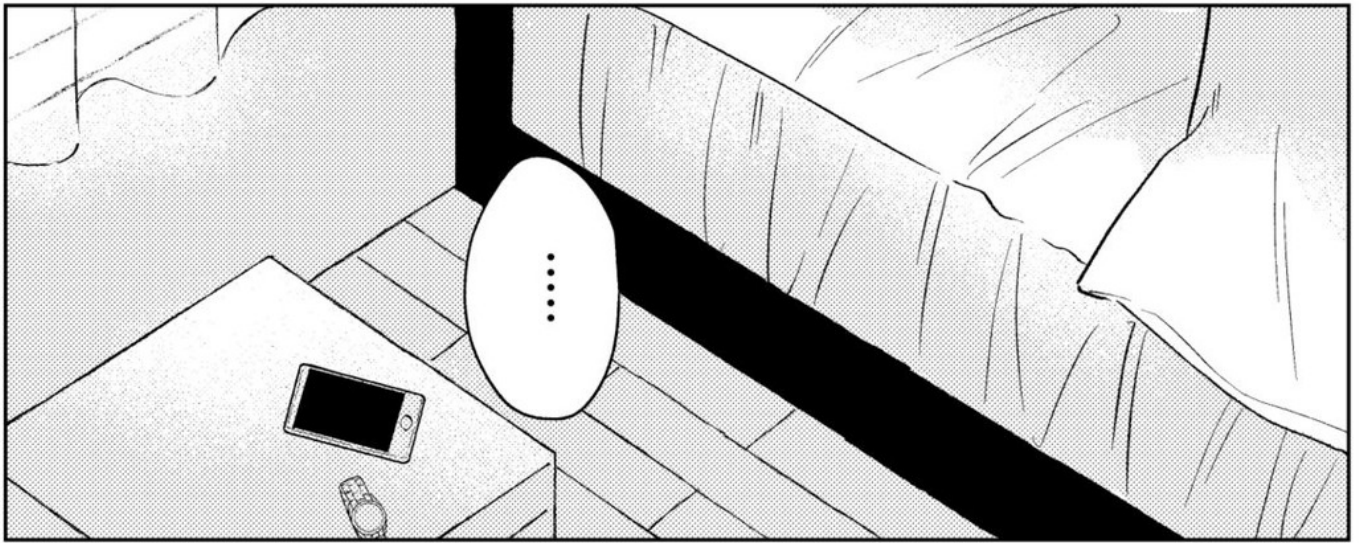
変わらないで

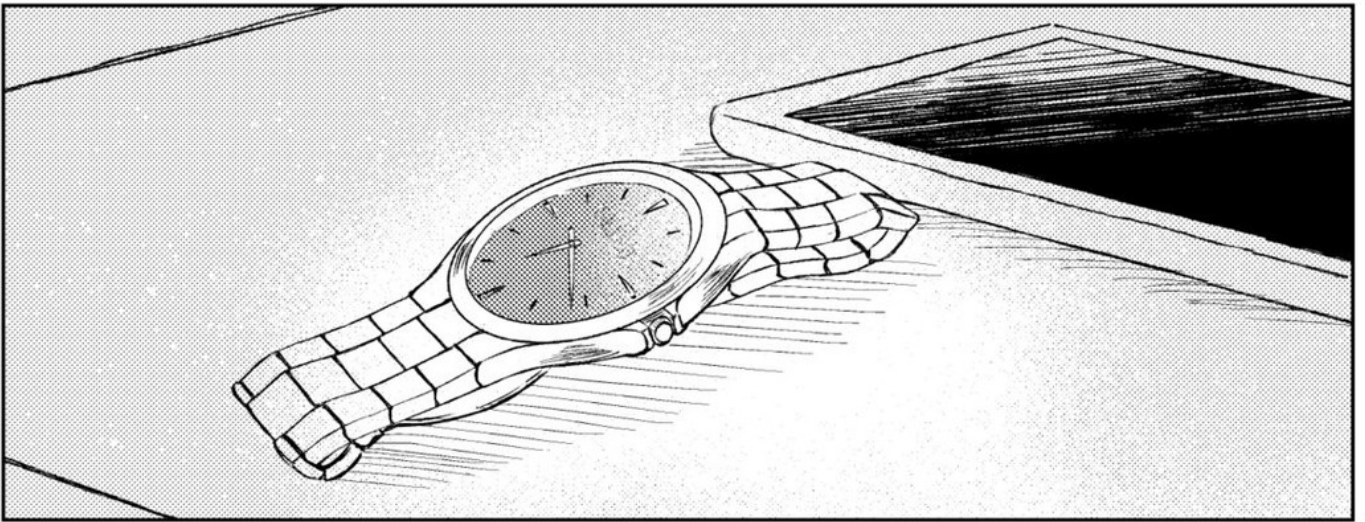


そのままの
きみでいて

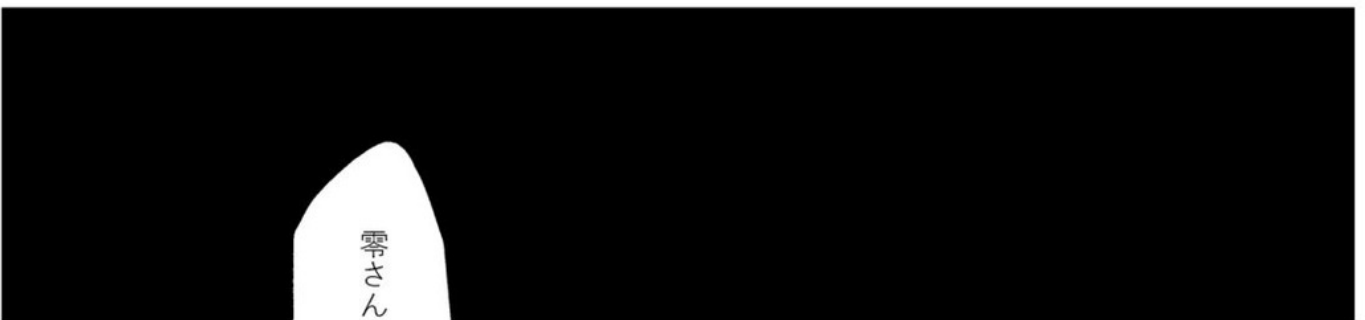
[Empty rectangular box]







この腕時計...



零さんの...



・・・そう？
普通のだけど

俺、そういうの
似合わないからさ



零さんの時計
大人って感じで
カッコイイよな



きみ、
華奢だしね

そうなんだよ
時計につけられてる
って感じがして・・・
革ベルトの
ほっか



うん、
そうだけど？



ねえ
新一くん、
来年卒業
だったよね？



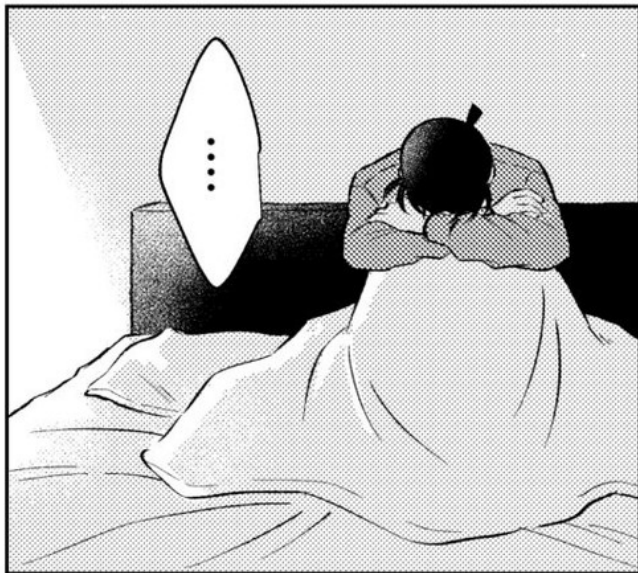


零さんのおさがりかよ

「僕のことなんか忘れて」だ

…なんだよ

なにが



…



忘れさせる気なんて

さらさらねえじゃん



っし



イチからどころか
ゼロから捜査
しねえとだな

こんなものを
残したりはしない

別れると
わかっていて

抱いたり
はしない



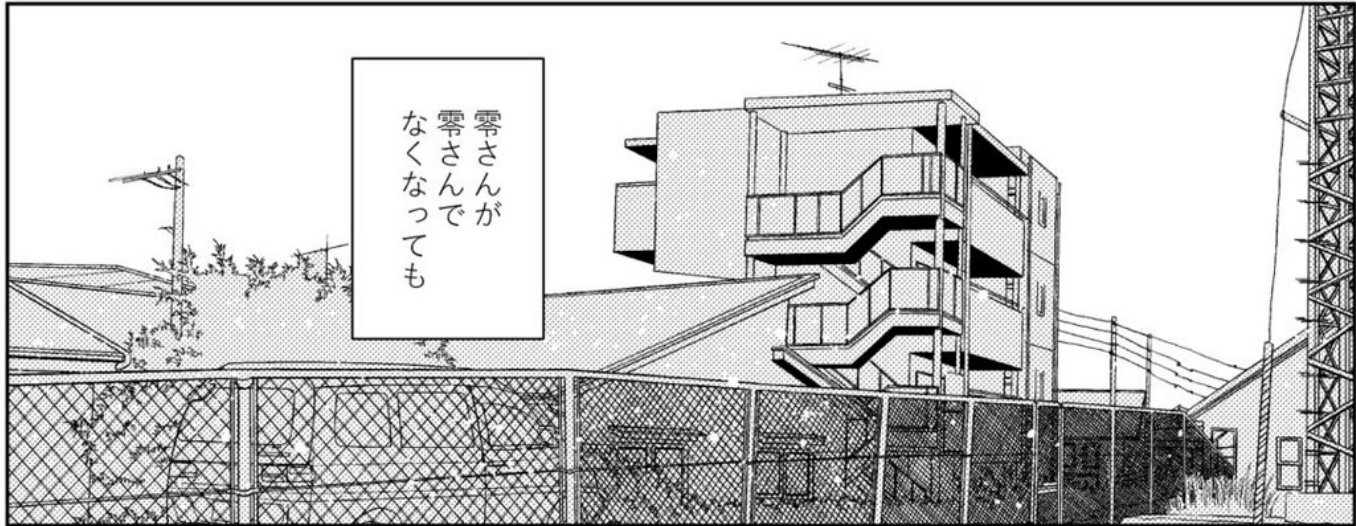
フッ
やっぱGPS
バレてるか

あの人は



おとなしく
待っててなんか
やるかよ

零さんが
どこに行っても



零さんが
零さんで
なくなっても

必ずまた



貴方に
辿り着いて
みせるから



だから

真実の先で
待ってて